



とどげ、未来の治療薬！



三重大学大学院医学系研究科・教授
臨床研究開発センター・センター長
西川 政勝 Nishikawa, Masakatsu
[URL] <http://www.medic.mie-u.ac.jp/chiken/>
<http://www.mie-cts.net/>

臨床研究開発センターにて

◎治験とは

病気を治すために使用される薬は、どのようにして出来上がるかご存知ですか？薬として厚生労働省に承認されるまでには、様々な手順を踏まなければなりません。まず効果のありそうな「薬の候補」を見つけ、動物を用いて試験が行われます。そこで十分に調べた後に少数の健康な成人に実際に使用していただき、その薬の安全性を調べます。次に実際に患者さんに使用していただき、「その薬がどれだけ効くのか（有効性）」と「どのような副作用がどのくらいの割合で起こるのか（安全性）」を調べるための試験を行います。このような「人」に対して行われる試験のことを「治験」（図1）と呼んでいます。

◎臨床研究開発センター

難病や治療法が確立されていない病気があるかぎり、新薬の開発に終わりはありません。そのため、医療の進歩には治験が必須であり、治験に参加していただく多くの方々の協力によって支えられていると言えます。三重大学附属病院には、患者さんの人権や安全性を守り、科学的で、信頼性の高い治験や臨床研究を行う臨床研究開発センター（図2）があります。センターでは、各部門の専門スタッフが患者さんに、安心して治験にご参加いただけるようにサポートを行っています。特に治験に対する説明や相談は、患者さんが納得のいくまで行い、良きパートナーシップを築くことを心がけています。

◎皆さんに必要なとき、有効な治療を

2003年私たちは、三重県、三重県医師会と連携してより効率よく、積極的に治験を行う組織「みえ治験医療ネットワーク」（図3）を立ち上げ、その運営事務局として「NPOみえ治験医療ネット」を作りました。優れた新薬をいち早く患者さんに届けるため、県内の医療機関が一体となり、治験の普及啓発、作業分担、情報共有等を行っています。これは医療従事者が最先端の医療を学ぶことができ、チーム医療の向上に役立ち、患者さんに高度な診療を提供することに繋がります。「みえ治験医療ネット」は、みえメディカルバレープロジェクト（三重県）とも連携し、県民の皆様の健康のため今後も走り続けます。

